

令和元年度 第1回指導力向上支援・判定会議会議要旨

- 1 日 時 令和2年3月16日(月)13時30分～15時30分
- 2 場 所 市役所本庁舎 3階 教育委員会事務局第2会議室
- 3 出席者 (委員)
福田委員長・森委員・沼守委員・川合委員・小谷委員・高橋委員
(事務局)
藤巻教務部長・井内教務部教職員資質向上担当課長・坪井教務部首席管理主事・大澤教育センター教育振興担当課長・片岡指導部総括指導主事・菅教務部担当係長・塩田教育センター総括指導主事・蓮尾指導員・早川指導員・武林指導員・久野指導員・梶川指導員・山形指導員・平川係員
- 4 議事要旨 議案第1号、第2号ともに、指導が不適切である教員の認定及びステップアップ研修の決定についての意見聴取を行った。両議案ともに、当該教員に対しては、指導が不適切である教員の認定と、校外におけるステップアップ研修の決定が妥当であるという意見があった。
- 5 主な発言内容
(議案第1号)
 - ・ 基本的な指導力が不足しているにも関わらず、向上心が見られない。
 - ・ 仕事の流れ、手順を整理できず、それを可視化、客観化して、次に活かすというサイクルの確立ができない。また、知識を得ようという意欲にも欠ける。
 - ・ 指導に対して、素直に聞いてはいるが、実際は受け止めていないのではないかとと思われる。自身の課題に向き合わないと課題改善は難しい。
 - ・ 教員としての責任を十分に果たせていない。管理職から何度も指導されているが、その指導を自身の課題の改善につなげられないまま、子どもたちの前に立っている状況である。その状況に一度区切りをつけ、不足している知識、指導力を身に着ける時間が必要である。
 - ・ 当該教員に対しては、指導が不適切である教員の認定と、校外におけるステップアップ研修の決定が妥当である。
(議案第2号)
 - ・ 特別支援学級担当だが、子ども一人ひとりにするべき対応をしておらず、管理職の指導を受けても改善が見られない。教員としての自覚、責任感にも課題がある。

- ・教員として基本的な教育的愛情に欠ける。その課題に根本から向き合わなければ、改善は難しい。
- ・子どもの反応を想像できず、授業づくりに生かすことができないため、子どもの立場に立った指導ができない。子どもへの声掛けなど、子どもを大切にするという点で課題があり、それを認識させることが必要である。
- ・当該教員に対しては、指導が不適切である教員の認定と、校外におけるステップアップ研修の決定が妥当である。